

# ハロウィン

2022.10.31 校長 西谷 秀幸

今日は、10月31日です。もう分かりますね。ハロウィンの日です。

ハロウィンは、今から2000年以上も前に始まった外国のお祭りです。なぜ、10月31日なのかというと、今は1年の終わりが12月31日ですが、昔、その国では、1年の終わりが10月31日だったからです。つまり、「大みそか」のような日だったというわけです。

ハロウィンの日には、みんなが仮装しますね。なぜ仮装をするのでしょうか。



実は、1年の最後の日だった10月31日には、みんなが住んでいるこの世と、死んだ人たちがいるあの世がくっついて、死んだ人たちの霊、つまり、お化けがあの世界からこの世にやってきたのです。

でも、御先祖様のような良いお化けだけでなく、悪霊と呼ばれる悪いお化けや魔女たちも一緒にやってきて、子供たちをあの世界に連れて行ったりしたのです。

そこで、仮装してお化けの格好をしたり、魔女の服を着たりして、お化けや魔女の仲間だよ…って思わせることで、あの世に連れて行かれないようにしたのです。

さらに、本物よりも怖いお化けの格好をすることで、お化けや魔女たちが逆にビックリしてあの世に逃げ帰っていくようにしたのです。

つまり、10月31日に仮装をするのは、1年の最後の日、みんなでお化けの格好をすることで、本物のお化けや魔女たちから自分たちを守るためだったのです。

では、なぜハロウィンの日にはお菓子をもらえるのでしょうか。

あの世界から来たお化けや魔女たちは、勝手に人の家に入って、みんなの御飯を全部食べてしまいました。

そこで、困った人たちは、お化け用の御馳走を作って、それを食べて帰ってもらうことにしました。そこから、お化けの格好をした子供が『トリック・オア・トリート!』と言ったら、イタズラされないように、お菓子をあげることになったのです。

さて、ハロウィンには、カボチャのお化けが登場しますね。このかぼちゃのお化けは、「ジャック・オー・ランタン」と言います。「ジャックさんの提灯」という意味です。

昔、ジャックという、頭は良いけどずるいことばかりする人がいました。あるハロウィンの夜、ジャックのところに悪魔が来て、「お前を地獄に連れて行くぞ!」と言ったのですが、ジャックは悪魔もうまくだましちゃったのです。その結果、悪魔は、ジャックに「地獄に連れて行かない」ことを約束してしまいました。

その後、ジャックはおじいさんになって死にました。しかし、ずるいことばかりしてたジャックは、当然、天国に入れてもらえず、しかも悪魔と「地獄に連れて行かれない」ことを約束していたので、天国にも地獄にも行かず、お化けの世界に行ったのです。

ある日、真っ暗なお化けの世界を歩いていると、そのときの悪魔が出て来て、ジャックに小さな火をくれました。ジャックはこの火が消えないように、道に落ちてたカボチャの中身をくりぬいて、もらった火を入れて、「カボチャの提灯」を作りました。このカボチャの提灯が、「ジャック・オー・ランタン」なのです。

ちなみに、「ジャック・オー・ランタン」は、もともとはカボチャじゃなくて、カブだったのだそうです。

これで朝会のお話を終わります。

(裏面に「先生方へ」があります)

## 〈先生方へ〉

先日は、3年ぶりの青空集会、ありがとうございました。雨の心配と寒さが心配でしたが、大きな事故・ケガもなく、無事に終わることができました。大変であります。縦割班で行く全校遠足の意義を感じることができました。特活主任の武司先生をはじめ、教職員の皆さん、ありがとうございました。また、音楽会の会場設営もありがとうございました。よく話している「見えないところで支えてくれている人」について、6年生の活躍をまた改めて全校児童には伝えようと思っています。

学びのエリア研修会で川田先生が提案してくれた「1年生から9年生までのChromeBook活用」については、本エリアの提案が今後、区のスタンダードの大元になるのではないかと思います。意識して系統的に指導していきましょう。

今週は、校内研の6年生の授業研究です。活発な競技をよろしくお祈りします。

さて、今日はちょうど10月31日ということで、ハロウィンに関する話をしました。ハロウィンについては、今回、改めて調べてみたことで、知っているように意外と知らない自分に気付かされました。御存知のように、日本でのハロウィンの広がりには商業戦略です。火付け役は、東京ディズニーランド。衣装した女の子たちのイラストディズニーランドで初めてハロウィンイベントが開催されたのは、1999年10月31日でした。この時は『トワイライトパレード』という名で、約400人が衣装して、ディズニーキャラクターと園内をパレードをしたそうで当時は10月31日限定のイベントだったそうです。

各クラスで児童の実態に合わせて補足などをしていただくと幸いです。

### 【資料1】ハロウィンの起源

ハロウィンの起源はとて古く、今から2,000年以上前、紀元前のお話です。西中部ヨーロッパの古代ケルト人が信仰する宗教の『サウィン祭（収穫祭+悪霊を追い払う）』という儀式が始まりだとされています。

古代ケルト人の暦では、一年の始まりは11月1日（新年）。一年の終わりは10月31日（大晦日）でした。収穫祭新しい年は前日の日没から始まるとされており、サウィン祭は10月31日の夜から始まります。厳しい冬を無事に越せるように、秋の実りを感謝するお祭り（=収穫祭）であり、同時に、死者の魂が家族や親族を訪ねて来る日でもあったのです。

まるで日本のお盆のようですが、大きく違うのは悪霊や怖い魔女なども一緒にやってきてしまうこと。悪霊たちは作物を荒らし家畜に害をなし、人間にとり憑いて死者の世界にさらっていく（魂を取られる）と信じられていました。

そこで人々は、悪霊や魔女に仲間だと思われるように、10月31日の夜は彼らの姿を真似ることにしました。なるべく似た恰好をすることで仲間だと思わせ魂を取られないように、怖い格好をして悪霊や魔女を驚かせ、死者の世界に帰ってもらえるように…。自分や家族の身を守る事が10月31日の夜に衣装する由来とされています。

### 【資料2】日本のハロウィンと欧米のハロウィンの違い

日本のハロウィンが老若男女問わず楽しむイベントだとすると、欧米のハロウィンは『子供』が主役です。

魔女やおバケに衣装した子供たちが、玄関先にジャック・オー・ランタンを飾ってある家を訊ね、『トリック・オア・トリート（お菓子をくれなきゃイタズラするぞ）！』と家主にせまって、お菓子をもらうかイタズラをします。

そのため、大人も衣装して盛り上がる日本のハロウィンは、欧米の方からすると異なる光景に映るのだそうです。

### 【資料3】「ジャック・オー・ランタン」はもともとカブだった

「ジャック・オー・ランタン」はもともとカボチャじゃなくて、カブでした。この由来となったジャックの物語は、アイルランド伝承ですが、1800年頃、アイルランドを死者100万人以上という大飢饉が襲い、150万人以上がアメリカへ移住し、この伝承もアメリカへと伝わったようです。

しかし、アメリカではカブに馴染みがなく、代わりにカボチャが手に入りやすく加工しやすいということで、カボチャが使われるようになりました。このアメリカ式のハロウィンが世界に広がり、定着したので、カボチャがハロウィンの代名詞となりました。ちなみに、ハロウィン本場のアイルランド等では、今でもカブを使うそうです。